

第 14 回日本化学療法学会総会シンポジウム：カスガマイシンの基礎と臨床

期 日 昭和 41 年 5 月 25 日
場 所 熊本県立図書館ホール
会 長 河 盛 勇 造
司 会 高 安 久 雄

基 礎 臨 床	1. 基礎的知見 2. 吸収, 排泄 1. 尿路感染症 (内 科) (泌 尿 器 科) 2. その他の領域における感染症 (外 科) (内 科) (耳 鼻 科) (眼 科) (皮 膚 科)	司 会 高 安 久 雄			
		梅 沢 浜 夫			
		西 浦 常 雄			
		上 田 泰 勉			
		柿 崎			
		石 山 俊 次			
		古 屋 曉 一・三 沢 昶			
		三 辺 武 右 衛 門			
		三 国 政 吉			
		川 村 太 郎			

は じ め に

司 会 高 安 久 雄

カスガマイシンは既に皆様御承知のことと思いますが、今日、此处で基礎的知見についてお話していただきます梅沢教授及び協同研究者によつて 1964 年春日神社の土壌から分離された菌株から発見されたもので既に“いもち病”の農薬として知られているものであります。医薬品としては緑膿菌感染症が取上げられ、特に尿中に

高濃度に排泄されることから、最初は緑膿菌による尿路感染症に対する効果を検討するために、市川篤二名誉教授を班長とする研究会が生れ、次いで各科領域における検討も進められてきた次第であります。今回、河盛会長が特に本邦において開発された化学療法剤として、カスガマイシンをシンポジウムに取上げるという強い御意向によつて、このシンポジウム開催の運びとなつたと聞いております。これから 3 時間半に亘る長時間で御座いますが御静聴をお願い申し上げます。